

## 2) 社会環境の概要

### ア) 人口

#### ■変遷

宗像市は昭和38年(1963年)に始まる大規模宅地開発から、住宅都市として急発展を遂げている。昭和35年(1960年)からの25年間で人口は3倍にも拡大し、その後も拡大し続けた。平成12年(2000年)以降、人口伸び率は鈍化していくが、平成15年、17年の合併、編入の後を経て、平成22年(2010年)現在の国勢調査人口は95,481人に達している。

#### ■高齢化

平成12年(2000年)に12%であった65歳以上人口の割合は、平成23年8月時点では22.5%と大きく増加し、15歳未満人口は減少している。夜間人口に対する昼間人口の割合は8割程度で、微増傾向にある。都市拡大と共に流入してきた世代が次第に定年を迎え、就労人口は減少している。

平成22年の年齢別人口からは57歳から63歳人口が特に多く、高齢化は今後さらに加速することが予想される。さらにそのジュニア世代と比較すると、人口のピーク年齢は36歳で61歳人口の70%程度に留まる。産業の不足などにより、就労世代の流出が窺える。

加速する高齢社会を迎える宗像市では、生涯学習や地域ボランティアの推進など、地域文化に対する誇りの育成、活躍できる機会と場づくりは、市政の大きな方向性の一つである。

国勢調査人口の推移

年次	世帯数	人 工 (人)		
		総数	男	女
昭和 40 年	4,986	22,653	11,032	11,621
45	7,928	29,271	14,270	15,001
50	13,321	45,218	21,903	23,315
55	17,140	56,439	27,549	28,890
60	18,887	60,971	29,768	31,203
平成 2 年	21,819	68,265	32,652	35,613
7	25,897	76,936	36,391	40,545
12	29,062	81,588	38,694	42,894
17	34,914	94,148	44,459	49,689
22	37,051	95,481		

※12年次までは、旧宗像市データ

※22年次データは、速報値 (表 II-3、人口の推移)

昼間人口と夜間(常住)人口

年次	昼間人口	夜間(常住)人口	夜間人口に対する昼間人口の割合(%)
平成 2 年	55,524	22,653	81.3%
7	60,597	29,271	78.8%
12	81,588	45,218	80.6%
17	94,148	56,439	81.6%

※12年次までは、旧宗像市データ

(表 II-4、昼間人口と夜間(常住)人口)

年齢別人口

年齢	人口	年齢	人口
0	738	50	1216
1	794	51	1317
2	831	52	1279
3	827	53	1263
4	882	54	1367
5	815	55	1357
6	858	56	1391
7	851	57	1434
8	853	58	1544
9	870	59	1597
10	865	60	1668
11	919	61	1870
12	862	62	1685
13	973	63	1609
14	950	64	1066
15	962	65	1065
16	953	66	1340
17	958	67	1174
18	1015	68	1240
19	1035	69	1276
20	1095	70	1110
21	1106	71	924
22	1183	72	879
23	1077	73	993
24	1083	74	921
25	1083	75	832
26	1084	76	879
27	1144	77	819
28	1098	78	897
29	1129	79	791
30	1131	80	724
31	1182	81	751
32	1108	82	701
33	1129	83	589
34	1193	84	568
35	1244	85	497
36	1320	86	398
37	1228	87	350
38	1281	88	312
39	1279	89	261
40	1159	90	229
41	1181	91	166
42	1110	92	149
43	1096	93	115
44	913	94	109
45	1125	95	80
46	1109	96	57
47	1085	97	36
48	1177	98	29
49	1128	99以上	58

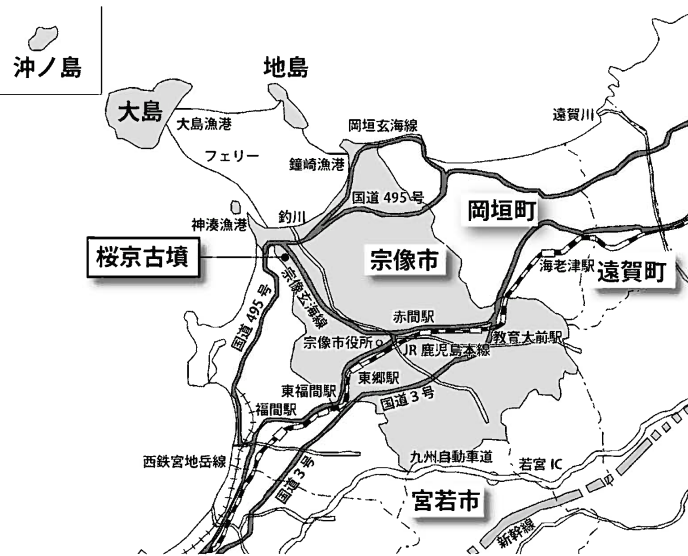
(表 II-5、年齢別人口)

出典：宗像市ホームページ 統計データ 人口

## イ) 交通

### ■広域交通

福岡市と北九州市からは概ね30kmの距離であり、JR 鹿児島本線、国道3号線、国道495号線などで両政令指定都市と結ばれ、利便性に富む。JR 鹿児島本線は市域中央を横断し、東郷駅、赤間駅、教育大前駅の3駅がある。南に隣接する宮若市には高速道路若宮インターチェンジがあり、市内から接続する道路の整備が進められている。

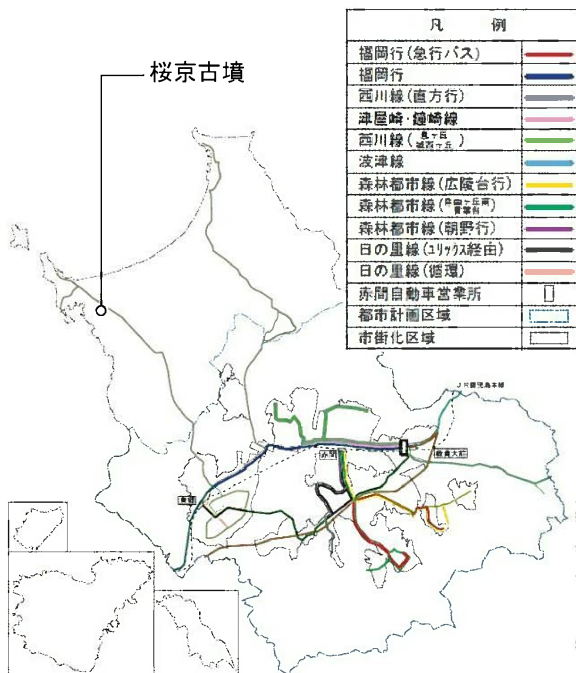


(図 II-2-6 宗像市の交通状況)

### ■市内公共交通

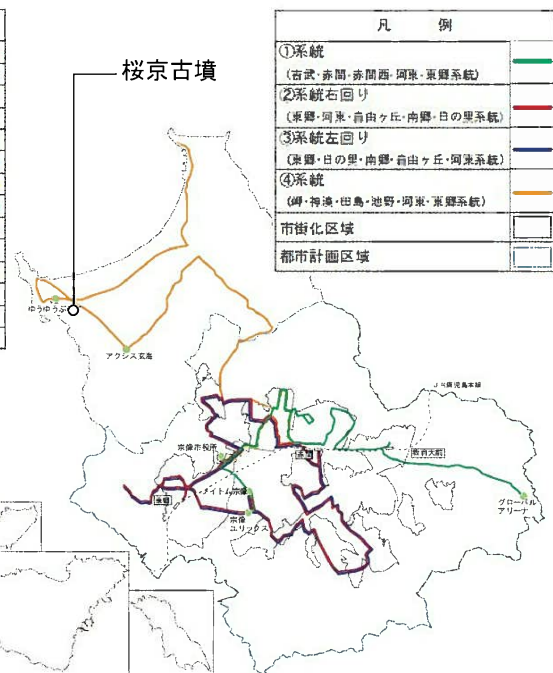
7路線ある民間路線バスは年々利用者が減少している。一方、市営のコミュニティバスが整備され、年々利用者を増加させている。観光活用など、さらなる活用が期待されている。市営の交通機関としては他に大島、地島への渡船航路がある。

史跡近くのバス停は「神湊入口」で800mほど離れている。現在、駐車場については、民有の空地を利用している状況である。史跡へのアクセス方法についての検討が求められる。



(図 II-2-7 市内の民間バス路線)

出典；宗像市マスタープラン



(図 II-2-8 コミュニティバス路線)

出典；宗像市マスタープラン

## ■周辺道路

桜京古墳は、県道 69 号宗像玄海線が国道 495 号線に結ばれる神湊交差点から 0.2km ほど南に位置する。

県道 69 号宗像玄海線は市内を縦貫し、国道 3 号線と 495 号線を結んでいる。道路沿いには釣川が流れ、教育大前駅、赤間駅の交通拠点や、福岡教育大学、宗像大社など歴史・文化施設が集積している。特に釣川下流域は、総合計画において歴史・自然・文化軸と位置づけられている。

国道 495 号線は北の沿岸部を走り、風光明媚な観光ルートとしても利用者が多く、総合計画では観光・リクリエーション軸として位置づけられ、近年観光拠点として「道の駅むなかた」が整備された。桜京古墳の整備においては、周辺連携などによる観光産業への相乗効果が期待されている。

## ウ) 産業

### ■規模と構成

宗像市は、住宅都市として急発展を遂げている為、人口に対しての産業規模は小さい。産業従事者の構成も、都市の発展と共に第 1 次産業主体から、サービス業を中心とする第 3 次産業主体の構成へと急激に変化した。平成 17 年(2005 年)の産業別の就業者構成比は、第 1 次産業 4.8%、第 2 次産業 19.4%、第 3 次産業 74.1%、となっている。

### ■各産業動態

第 1 次産業では、農業 3.2%、漁業 1.5%となり、ともに年々減少している。林業に至っては産業従事者が皆無となり、森林の荒廃が懸念される。第 2 次産業については食料品、窯業、金属製品などの製造業が 12.5%を占める。食料品製造業については平成 20 年(2008 年)に急増している。「道の駅むなかた」の効果などが考えられる。増加傾向の一途を辿る第 3 次産業では、販売額の 8 割は小売業が占めている。

今後宗像市では、成長期に流入した世代の定年後の再就職先の増加は期待できず、職を求めた人口の流出が懸念される。活躍の場の創出は市の一つの課題でもある。

産業大分類・男女別就業者数

産 業 (大分類)	平成 2 年				平成 7 年				平成 12 年				平成 17 年			
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比
3市町村合計	32,413	19,816	12,597	100.0	38,383	22,895	15,488	100.0	40,714	23,705	17,009	100.0	41,611	23,734	17,877	100.0
総 数	32,413	19,816	12,597	100.0	38,383	22,895	15,488	100.0	40,714	23,705	17,009	100.0	41,611	23,734	17,877	100.0
第 1 次 産 業	2,499	1,588	911	7.7	2,324	1,510	814	6.1	2,120	1,385	735	5.2	1,983	1,278	705	4.8
農業	1,649	886	763	5.1	1,576	875	701	4.1	1,416	800	616	3.5	1,342	756	586	3.2
林業・狩猟業	8	7	1	0.0	4	4	—	0.0	5	4	1	0.0	—	—	—	0.0
漁業・水産養殖業	842	695	147	2.6	744	631	113	1.9	699	581	118	1.7	641	522	119	1.5
第 2 次 産 業	7,691	5,713	1,978	23.7	8,476	6,231	2,245	22.1	8,894	6,483	2,411	21.8	8,074	6,013	2,061	19.4
鉱業	22	29	2	0.1	20	18	2	0.1	7	7	—	0.0	5	3	2	0.0
建設業	2,883	2,357	526	8.9	3,375	2,762	613	8.8	3,271	2,722	549	8.0	2,863	2,424	439	6.9
製造業	4,786	3,336	1,450	14.8	5,081	3,451	1,630	13.2	5,616	3,754	1,862	13.8	5,206	3,586	1,620	12.5
第 3 次 産 業	22,167	12,483	9,684	68.4	27,436	15,072	12,364	71.5	29,367	15,653	13,714	72.1	30,821	16,037	14,784	74.1
電気・ガス・熱供給	208	170	38	0.6	260	217	43	0.7	224	183	41	0.6	192	163	29	0.5
運輸・通信業	1,869	1,618	251	5.8	2,145	1,830	315	5.6	2,391	1,970	421	5.9	2,794	2,321	473	6.7
卸売業・小売業	7,455	3,806	3,649	23.0	9,360	4,618	4,742	24.4	9,387	4,381	5,006	23.1	7,975	3,735	4,240	19.2
金融・保険業	1,109	502	607	3.4	1,272	622	650	3.3	1,283	697	586	3.2	1,093	566	527	2.6
不動産業	355	242	113	1.1	391	254	137	1.0	395	251	144	1.0	413	284	129	1.0
サービス業	9,457	4,761	4,696	29.2	11,894	5,797	6,097	31.0	13,490	6,344	7,146	33.1	16,134	7,177	8,957	38.8
公務	1,714	1,381	330	5.3	2,114	1,734	380	5.5	2,197	1,827	370	5.4	2,220	1,791	429	5.3
分類不能の産業	56	32	24	0.2	147	82	65	0.4	343	184	149	0.8	733	406	327	1.8

(表 II-6 産業大分類・男女別就業者数)

出典；宗像市ホームページ統計データ国勢調査

## エ) 観光

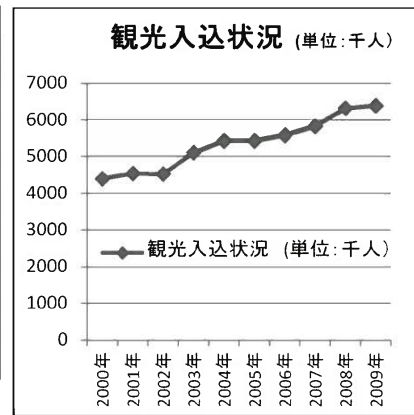
### ■増加する観光入込客

平成12年(2000年)の旧宗像市の観光入込客数は約120万人であったが、平成21年(2009年)の宗像市の観光入込客は638万人にも上る。年間300万人程の観光入込客数を確保していた玄海町、大島町との合併が大きな要因に挙げられるが、そのほかに200万人ほどの増加が見受けられる。

平成13年(2001年)に50万人の増加、平成15年、16年(2003、2004年)にかけて約90万人の増加、平成20年(2008年)にも約50万人の増加と、継続した観光入込客数の増加が見受けられる。観光資源や施設の整備による効果と考えられる。

観光入込状況 (単位:千人)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
宗像市	4,399	4,539	4,530	5,103	5,421	5,421	5,578	5,834	6,320	6,389
旧宗像市	1,230	1,709	—	—	—	—	—	—	—	—
旧玄海町	3,083	2,726	—	—	—	—	—	—	—	—
旧大島村	86	104	95	104	—	—	—	—	—	—
福津市	5,222	5,193	5,215	5,242	5,235	5,246	5,001	4,960	4,877	4,742
旧福岡町	696	667	788	820	865	—	—	—	—	—
旧津屋崎町	4,526	4,526	4,427	4,422	4,370	—	—	—	—	—
岡垣町	312	294	298	297	312	311	317	301	287	285
芦屋町	705	614	652	582	457	619	387	522	509	456



※宗像市の数値は合併前の旧宗像市、旧玄海町、旧大島村の値の合計値である。  
 ※福津市の数値は合併前の旧福岡町、旧津屋崎町の値の合計値である。  
 ※2002年以降は宗像市の合併後に集計しているため、旧宗像市、旧玄海町の値がない。  
 ※2004年以降は宗像市の合併後に集計しているため、旧大島村の値がない。  
 ※2005年以降は福津市の合併後に集計しているため、旧福岡町、旧津屋崎町の値がない。

(表 II-8 観光入込客の推計)  
 出典：福岡県観光入込客推計調査

### ■一定の来場者を確保する観光資源

宗像市には、自然資産、文化資産、観光レジャー施設と多彩な観光資源が存在する。

#### ○玄界灘沿岸部

玄海国立公園に指定され、県内からの多くの観光客を集めている。平成20年(2008年)に観光拠点として整備された「道の駅むなかた」は年間来場者139万人を誇り、宗像の特産品ブランド「むなかた季良里」の成功に向けた新たな展開など、地域に活力をもたらしている。

玄界灘に浮かぶ地島、大島には定期船が航行し、平成22年(2010年)オープンした大島海洋体験施設「うみんぐ大島」など、多くの釣り客や観光客を集めている。

#### ○宗像大社

宗像大社への参拝者は年間約200万人で推移している。様々な催しに年間をとおして全国から参拝者が訪れる。

#### ○市街地、及び東部

市街地には、唐津街道沿いの宿場町の整備地域や、年間来場者数100万人近くを誇る宗像市総合公園、宗像ユリックスがある。また東部に行くとプロラグビーチームの本拠地

でもあるレジャー施設が多くスポーツファンを集める。

東部に連なる四塚連峰の麓には「ふれあいの森」や、「山田ホテルの里」などの施設や、神社仏閣が点在し、貴重な自然の残る山間部も登山客などに人気が高い。

#### ■潜在的観光需要

断続的に増加する観光入込客と、新旧に関わらず一定の来場客数を確保する観光資源の存在から、潜在的な観光需要が高い地域と推察できる。観光地や自然・文化遺産の整備には集客効果が期待できる。

#### <神社・仏閣>

名 称	特 色
宗像大社	辺津宮（田島）、中津宮（大島）、沖津宮（沖ノ島）が朝鮮半島に向かってほぼ一直線に並ぶ形で鎮まり、3つの宮が一体となって一つの神社を形成している。交通安全の守護神。
宗像大社・辺津宮	御祭神は、市杵嶋姫神（宗像三女神の一神、天照大神の御子神）
宗像大社・中津宮	御祭神は、湍津姫神（宗像三女神の一神、天照大神の御子神）
宗像大社・沖津宮	御祭神は、田心姫神（宗像三女神の一神、天照大神の御子神）
鎮国寺	本尊は大日如来。宗像大社沖津宮の御子神・田心姫神の本地仏。弘法大師が唐から帰国後、建立されたといわれる名古屋で、同大師作と伝えられる不動明王立像がある。例年、4月28日には、柴灯大護摩供（火渡り神事）が行われる。
八所宮	本殿の彫刻。
宗生寺	藤棚とつつじがある。
馬頭観音	33年に二度しか開帳されない秘仏。
増福院(山田地蔵尊)	子育て地蔵。本堂の天井画。
隣船寺	禪寺。境内には種田山頭火の句碑がある。
浄光寺	樹齢約300年の藤の木がある。

#### <観光関連施設>

名 称	特 色
正助ふるさと村	農をテーマにしたパーク、体験農園など。食事もできる。
ふれあいの森	手帳にバードウォッチングや森林浴。自然スポーツ公園。
グローバルアリーナ	スポーツや体験学習を楽しめる複合フィールド。宿泊施設、会議室、レストラン完備。
福岡県立少年自然の家「玄海の家」	研修施設、キャンプ施設など。
ゴルフ場	3件
工房など	陶芸4件、ガラス3件、彫刻1件、銀細工1件、木工品1件、ドライフラワー1件
観光農園	みかん狩り3件、いちご狩り1件
乗馬体験施設	2件
造り酒屋	2件
宿泊施設	28件
道の駅	1件
うみんぐ大島	1件 海洋体験施設。

(表 II-9、宗像市の観光資産と施設)

## オ) 景観

### ■周辺の特徴的景観

釣川の下流域には田畑が広がり、山際に集落が点在する豊かな農村景観が広がっている。平野の中に点在する山塊には随所に神社が祀られ、豊かな社叢景観を醸し出す。山並みは東西に連なり、盆地状の地形を認識することができる。また神湊、鐘崎などには漁村の景観を継承している場所も残る。海浜には黒松が覆い茂り、島々の点在する海を一望する壮大な自然景観が広がっている。周辺には多彩な特徴的景観が存在する。



(写真Ⅱ-2 周辺景観 ①)

### ■外景観

史跡東からの外景観は、豊かな農村景観に含まれ、世界遺産のバッファゾーンとしても景観の保護が求められる。史跡の視認性については、樹木の整備などで国道 495 号線沿いの随所から視認性を高める。特に多くの人を集める道の駅からの視認性の確保は、世界遺産の PR、利用率の向上などの面において効果が期待される。



(写真Ⅱ-3 道の駅からの景観 ②)



(写真Ⅱ-4 ゆうゆうプラザからの景観 ③)

また、県道 69 号線に対しては、案内看板を兼ねた学習看板が道路と並行して設置されているが視認しにくく、史跡までの道のりが解かりにくい。現状の来訪者はほとんどいないと思われる。



(写真Ⅱ-5 県道沿いの学習看板 ④)



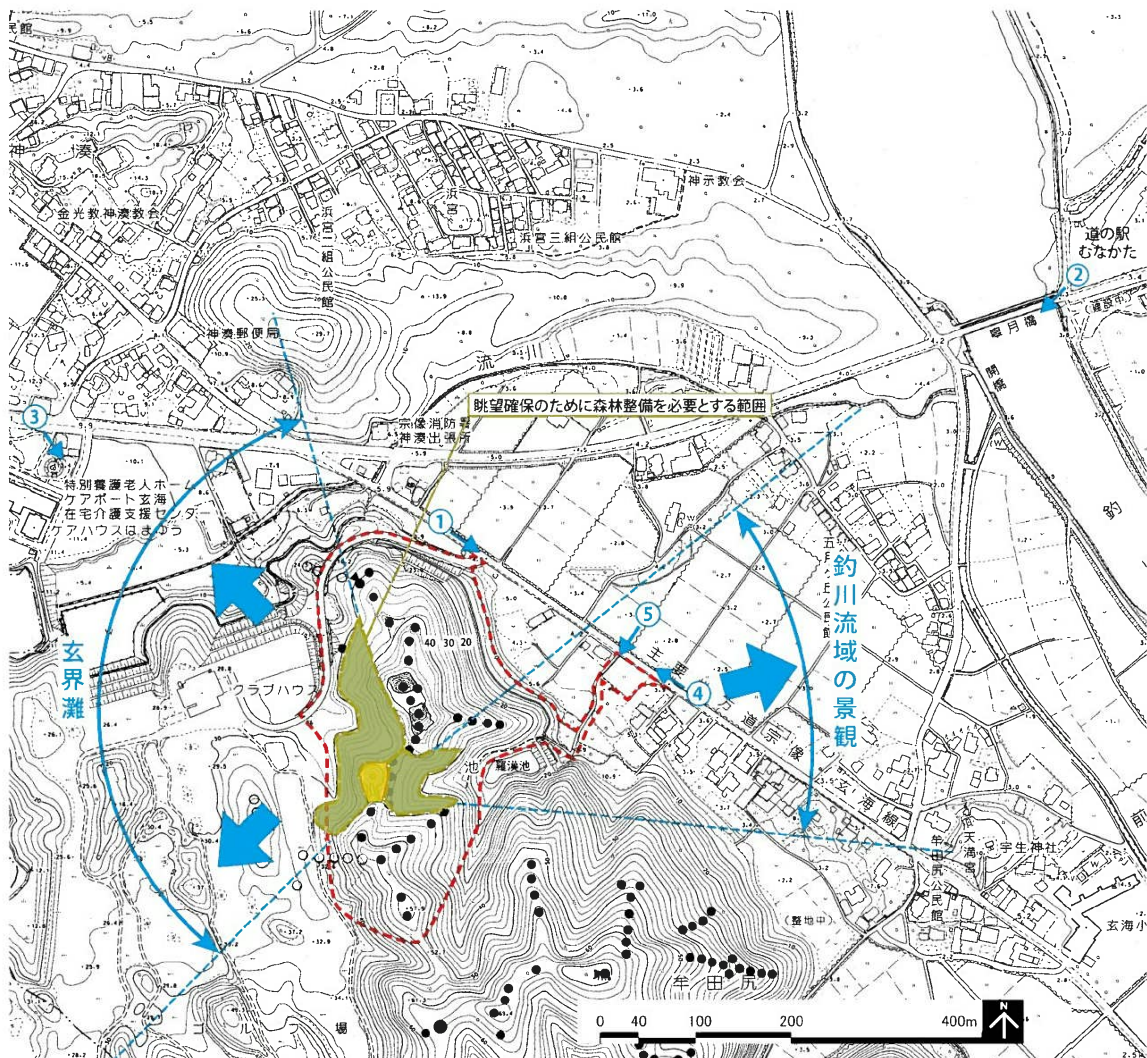
(写真Ⅱ-6 県道沿いの学習看板 ⑤)

## ■内景観

桜京古墳は北西から西南にかけての玄界灘の眺望と、東方の釣川流域を見渡す位置にあり、森林整備を進めることで、その眺望は確保できる。

特に玄界灘は、大陸文化の門戸として悠久の歴史を刻んでおり、対外交渉に大きな役割を担った大島や地島、宗像大宮司家の所領であった小呂島（福岡市）などを望み、被葬者の社会的な地位や活動領域を知る手掛かりとなる。国道 495 号線沿いには市史跡田野瀬戸古墳、浜宮貝塚や国史跡津屋崎古墳群（福津市）など宗像海人族の活動を示す遺跡群が点在し、いわば海人ロードを形成している。周辺遺跡との関係、盆地を形成する自然要因の把握、古代海岸線の把握など、教育活用の面においても多彩な資料を提供する。

展望所の設置と共に、自然と歴史ロマンが融合する魅力を演出し、来訪者を惹きつける整備が望まれる。



(図Ⅱ-2-6 内景観の確保と、森林整備の必要範囲)